

注意

1. 答案用紙は問題の真中に挿入してあります。
2. 受験番号は各答案用紙の指定の箇所だけに記入しなさい。受験者の氏名、符号等が書いてある答案は無効になります。
3. 答案は配付した答案用紙で作成しなさい。
4. 答案用紙は、必ず切り取り線で切り離し、提出しなさい。
5. 問題は持ち帰ってよろしい。

第五問

(満点 100点)

{第六問とあわせ
時間 2時間}

次の標準原価計算についての問1～問3に答えなさい。なお、問2と問3については、解答用紙の所定の範囲内で記述すること。

問1 標準原価計算を採用している当工場では、3種のX原料、Y原料およびZ原料をすべて工程の始点で投入し、混合・加工して製品Aを生産している。標準原価カードの一部(原料費関係)および当月の生産データは(資料)のとおりであった。この(資料)により、原料費の総差異を計算し、またこれを配合差異、減損差異および副産物差異に分析しなさい。ただし、原料価格差異は受入価格差異として別途把握されている。なお、計算に当たって端数が生じる場合には、小数点以下2位未満を四捨五入すること。

〔資料〕

1 A製品標準原価カード(1ロット:1,000kg当たり)

	標準数量	標準単価	標準原料費
X原料	220 kg	30 円	6,600 円
Y原料	550 kg	20 円	11,000 円
Z原料	330 kg	40 円	13,200 円
減損	30 kg		
副産物	70 kg		
標準完成品	1,000 kg		30,800 円

2 当月の生産データ

- 月初および月末の仕掛品はない。
- 当月実際完成量 10,000 kg
- 当月原料実際投入量
 - X原料 1,900 kg
 - Y原料 5,700 kg
 - Z原料 3,700 kg
- 副産物実際発生量 400 kg

問2 制度としての標準原価計算の特質を説明し、その特質を踏まえて、これを採用する場合の利点を三つあげなさい。

問3 最近、「標準原価計算の役割は終わった」とする見解をみることがある。その意味を説明し、現在の産業社会の実状を考慮してこの見解を論評しなさい。

特徴①

④と⑤の④がCLP財。⑤は、F/P合計と等しいに決まってる。
 C=2で決まる。

1) 3桁の百位(10)の校立の和を。
 ④と⑤を比較すると2桁の百位が1桁より1桁多い。

2) 計算の
 ④は1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。
 ④は1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。
 ④は1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。
 ④は1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。

3) 計算の結果
 ④は1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。

④の1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。
 ④の1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。
 ④の1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。
 ④の1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。
 ④の1桁より1桁多い。⑤は1桁より1桁多い。

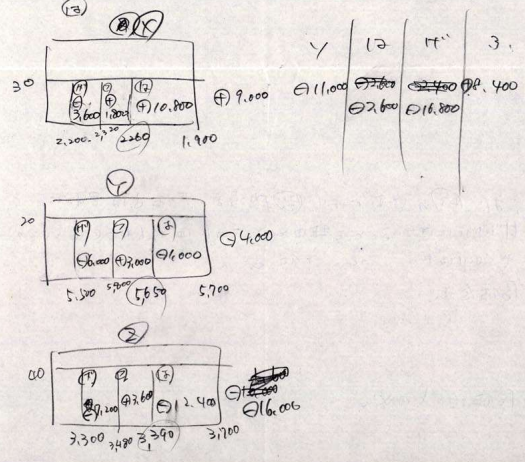
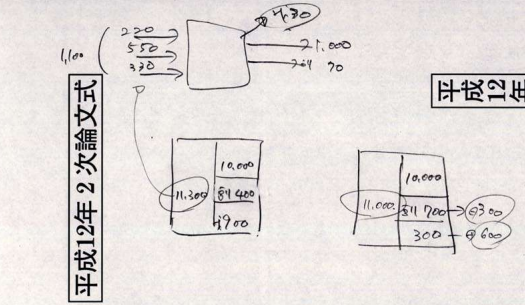
④と⑤の④がCLP財。⑤は、F/P合計と等しいに決まってる。
 C=2で決まる。
 ④と⑤を比較すると2桁の百位が1桁より1桁多い。

平成12年2次論文式

平成12年2次論文式

平成12年2次論文式

2252870112 ◆K11(06)-8



平成12年2次論文式

第六問

(満点 100点)

{第五問とあわせ}
時間 2時間



問題1 甲製造株式会社はA事業部とB事業部の二つをもっている。A事業部は中間製品を生産しており、それは市場で販売することはできない。B事業部はこの中間製品をさらに加工し、最終製品を市場で販売している。販売価格は総販売量の関数である。A事業部で中間製品を生産するためには、単位当たり変動費が200円、年間の固定費が3,000万円必要である。そしてB事業部で、この中間製品をさらに加工し、市場で販売するためには、単位当たり変動費が800円、年間の固定費が8,500万円かかる。最終製品の価格関数は

$$p = 2000 - 0.002X$$

$$\pi = Px - C$$

$$C = \begin{matrix} 200X + 3,000,000 \\ 800X + 8,500,000 \end{matrix}$$

であり、pは単位当たり販売価格、Xは総販売量を表している。

$$= (2000 - 0.002)(X) - 1,000X - 65,000,000$$

$$\pi = 2000 - 0.004X - 1,000 = 0$$

問1 甲製造株式会社にとって利益が最大となる年間の生産量はいくらか。そして、そのときの販売価格を求めなさい。計算のプロセスも示しなさい。

$$X = 250,000$$

$$P = 1,500$$

60,000,000

問2 いま、A事業部はB事業部への振替価格を自由に設定することができ、B事業部は生産量および売上量を自由に決定することができるものと仮定する。もし、A事業部が単位当たり振替価格を500円と設定したならば、A事業部、B事業部および会社全体の利益はどのようになるか。

問3 事業部間の振替価格を決定する際の基準について200字以内で述べなさい。

	売上	変動費	固定費
A事業部	○	○	○
B事業部	○	○	○
会社全体	○	○	○

2. ~~事業部間の振替価格を決定する際、会社全体の利益を最大化することを目的とする。このためには、A事業部の利益とB事業部の利益の合計を最大化する必要がある。A事業部の利益は、販売価格から変動費を引いたものである。B事業部の利益は、販売価格から変動費と固定費を引いたものである。したがって、A事業部の利益とB事業部の利益の合計を最大化するために、振替価格を設定する必要がある。~~

4. ~~振替価格が変化する。市価は、振替価格を決定する際の基準となる。振替価格が市価より高い場合は、A事業部の利益が増える。振替価格が市価より低い場合は、B事業部の利益が増える。したがって、振替価格を設定する際には、市価を基準とする必要がある。~~

2. ~~1. 振替価格が市価より高い場合は、A事業部の利益が増える。振替価格が市価より低い場合は、B事業部の利益が増える。したがって、振替価格を設定する際には、市価を基準とする必要がある。~~

2. ~~1. 振替価格が市価より高い場合は、A事業部の利益が増える。振替価格が市価より低い場合は、B事業部の利益が増える。したがって、振替価格を設定する際には、市価を基準とする必要がある。~~

問題 2 製品Xを製造し、販売している当社は、製造部門を製造事業部とし、販売部門を販売事業部とする事業部制の採用を決定した。来期の計画では、製造事業部が生産したものはすべて販売事業部が買い取り、販売事業部はそれをすべて市場で販売できるものと想定されている。

両事業部の間の振替価格として、製造事業部の単位当たり変動費に8%を上乗せした値である単位当たり43,200円が本部より提案されている。振替価格がこの金額に決定されるとすると、販売事業部は、製造事業部から製品Xを43,200円で購入し、販売に要する単位当たり6,200円の変動費を負担したうえで、製品Xを市場で販売することになる。販売価格は、市場における競争条件から50,000円に設定されている。

製造事業部の固定費は、1,250,000円、販売事業部の固定費は、210,000円である。製品Xを1単位生産するのに20機械時間の作業が必要であるが、製造事業部における機械作業に係わる発生費用は固定費とみなされている。なお、来期の生産能力は8,000機械時間である。

将来的に製品Xの需要が低下することを予測している本部の会計担当者は、製品Xをさらに加工処理して完成される新製品Yの開発を提案しようと考えている。この新製品Yは、製造事業部において、1単位当たり追加の変動費7,000円と4時間の機械作業を製品Xに加えることによって完成することができる。しかし、資金的な制約から、当面の間は機械設備の生産能力を拡張することはできない。新製品Yの販売に要する費用は、製品Xの場合と同様に単位当たり6,200円である。

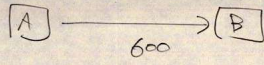
新製品Yの成功を確信している会計担当者は、もしもこの提案が採択されるならば、販売事業部を製品別に再編成するべきであると考えている。それは、販売事業部をX販売事業部とY販売事業部とに分割し、2つの事業部の業績責任を明確にすることが必要であるとの理由からである。しかし、その場合には、新製品Yの振替価格を決定するという新たな問題の解決が求められてくる。

問 1 本部より提案されている製品Xの振替価格は、両事業部にとって受け入れることができる値であるか。正しいと考える答えを丸で囲み、その論拠を述べなさい。

問 2 能力いっぱいの水準での操業が予定されているとき、新製品Yに付ける最低販売価格はいくらか。答えを解答欄に記入し、その導出過程を示しなさい。

問 3 能力いっぱいの水準での操業が予定されており、会計担当者の提案する再編成が実現されるとして、本部が提案する新製品Yの振替価格は、いくらからいくら金額の範囲であるべきか。答えを解答欄に記入し、その論拠を述べなさい。

平成12年2次論文式



売上 $600x$
 V $200x$
 MC $400x$
 ① $30,000,000$

売上 Px
 V $200x + 400x$
 $Px - 1,400x$
 ② $35,000,000$

$\pi = Px - 1,400x - 35,000,000$
 $400x - 30,000,000$
 $\pi = (2000 - 0.002x)x - 1,400x - 35,000,000$
 $\pi = 2,000x - 0.002x^2 - 1,400x - 35,000,000$

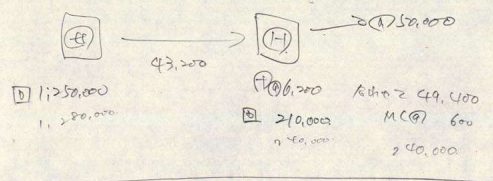
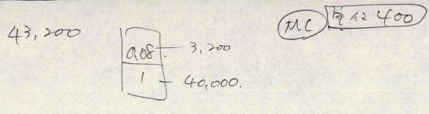
① $1,000x + 65,000,000$
 $= 215,000,000$
 売上 $255,000,000$
 $40,000,000$

② $0.004x = 600$
 $x = 150,000$
 $P = 1,700$
 $255,000,000$
 $45,000,000$
 $10,000,000$

23204270712 ◆ M1609-20

平成12年2次論文式

平成12年2次論文式



④ $7,000 \rightarrow ⑤ 47,000 \rightarrow$
 $④ 4MH \rightarrow ⑤ 4MH$
 $333, \dots$
 $MC \times 333 \dots = 1,460,000 \times \frac{24}{0.500}$
 $(P - (47,000 + 6,200)) \times 333$
 $P = 57,580$
 $MC = 4380$